

2022年12月8日

加盟団体代表者 各位

公益財団法人全日本ボウリング協会
競技委員長 不破 伸 二
(公 印 省 略)

J B C 主催大会の一部内容見直しについて

拝啓、時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当協会の諸事業に格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、先般開催した第4回競技委員会において、当協会主催大会の内容を一部見直すこととなりました。つきましては、変更内容は別紙の通りですので、ご確認の上、ご周知くださいますようお願い申し上げます。

ご不明点等ありましたら、J B C事務局（担当：鈴木）までご連絡ください。末筆になりますが、貴連盟益々のご発展を祈念申し上げます。

敬具

JBC主催大会の一部内容見直しについて(別紙)

全日本シニアボウリング選手権大会

	変更後	変更前
年齢区分	シニア部門	満50歳～64歳までの者
	ハイシニア部門	満65歳以上の者
	マスターズシニア部門	満75歳以上の者
ハンディキャップ	男・女シニア	50～59歳 0点 60～64歳 5点
	男・女ハイシニア	65～69歳 0点 70歳以上 5点
	男・女マスターズシニア	75～79歳 0点 80歳以上 5歳刻みで5点を加算
参加資格	<p>当該年度のJBC登録会員(個人正会員、実業団会員)で、各連盟に所属する満50歳以上(当該年度4月1日現在)で、各連盟から選出された代表選手であること。(ただし、個人普通会員は、個人正会員に登録変更すれば参加できる。)</p> <p>※シニア部門に1名不足が生じた場合、高年齢部門(ハイシニアまたはマスターズシニア)の選手がシニア部門で参加することを特例として認める。ただし、その特例は各連盟1チームのみとし、その場合の選手のハンディキャップは5点とする。</p>	<p>当該年度のJBC登録会員(個人正会員、実業団会員)で、各連盟に所属する満50歳以上(当該年度4月1日現在)で、各連盟から選出された代表選手であること。(ただし、個人普通会員は、個人正会員に登録変更すれば参加できる。)</p> <p>※シニアまたはハイシニア部門に1名不足が生じた場合、高年齢部門(ハイシニアまたはマスターズシニア)の選手が若年齢部門で参加することを特例として認める。ただし、その特例は各連盟1チームのみとし、その場合の選手のハンディキャップは5点とする。</p>

※ 従来のマスターズシニア部門の年齢区分の選手も、今後はハイシニア部門に参加することができます。ただし、ハンディキャップは、70歳以上は一律5点となります。

※ この変更は2023年度(第56回大会)より適用します。

JBC会長杯全日本年齢別ボウリング選手権大会

	変更後	変更前
競技方法	予選	各部門とも9ゲームの競技を行い(1ゲームごとにレーン移動)、その合計得点上位より、上位者を決勝進出者とする。
	部門決勝	各部門とも3ゲームの競技を行い(1ゲームごとにレーン移動)、予選9ゲームを合わせた12ゲームの総得点により、各部門の順位を決定する。
	オーバーオール	各部門優勝者が1ゲームの競技を行い、その1ゲームスコアの最も高かった者をオーバーオールチャンピオンとする。
ハンディキャップ	各部門とも、女子選手に1ゲーム15点のハンディキャップを与える。70歳以上の部は、75歳以上の選手に5歳毎に1ゲームにつき5点のハンディキャップを与える。 ただし、オーバーオールチャンピオン決定戦はスクラッチとする。	各部門とも、女子選手に1ゲーム15点のハンディキャップを与える。70歳以上の部は、75歳以上の選手に5歳毎に1ゲームにつき5点のハンディキャップを与える。
同位の裁定	予選・部門決勝において同位が生じた場合、第133条に基づき裁定する。ただし、部門決勝・オーバーオールチャンピオン決定戦において1位と2位が同点の場合、9・10フレームの決定戦により順位を決定する。	予選・決勝において同位が生じた場合、第133条に基づき裁定する。ただし、決勝において1位と2位が同点の場合、9・10フレームの決定戦により順位を決定する。

※ この変更は2022年度(第38回大会)より適用します。